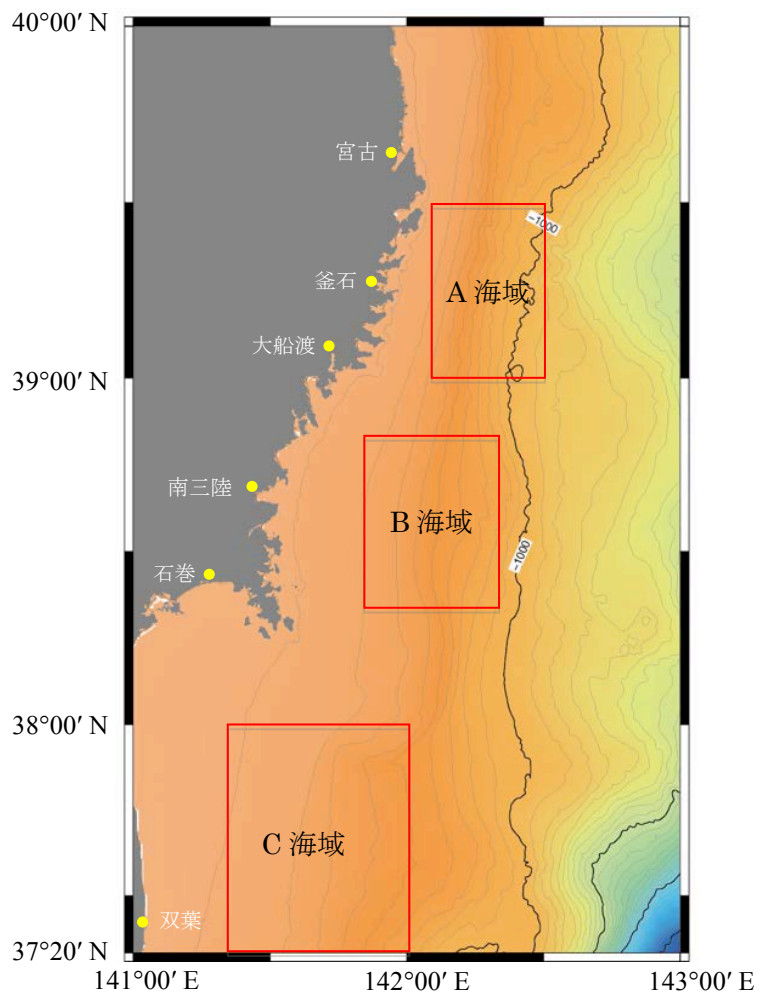


## クルーズサマリー

### 1. 航海情報

- 航海番号 KY15-08
- 船舶名 かいよう、ハイパードルフィン
- 航海名称 三陸沖合における海洋生態系変動メカニズムの解明
- 首席研究者 土田真二[海洋研究開発機構]
- 課題代表研究者 同上
- 研究課題名 三陸沖合における海洋生態系変動メカニズムの解明
- 航海期間 2015 5. 2-20
- 出港地～寄港地～帰港地 機構棧橋～釜石港外～機構棧橋
- 調査海域名 三陸沖
- 調査マップ



## 2. 実施内容

### ● 調査概要

#### ・音響による地形調査

岩手沖で2測線、宮城沖で3測線、福島沖で1測線の計測を行った。

#### ・ステレオ視カメラによる瓦礫・底生生物の定量的計測

ハイパードルフィンスキッドに装着し、適宜各潜航で観察を実施した。とくに、バンパー瓦礫、ピンガ付きベニズワイガニ、バクテリアマットサイト、ダーリアイソギンチャク、クモヒトデ類を中心に観察した。

#### ・資源生物の分布・行動の把握

大槌沖水深700m地点において、基準局8台を展開した。ベニズワイガニ17個体、キチジ4個体に小型ピンガを船上で装着して放流した。ハイパードルフィンにPINGU (PINGer attachment GU)を搭載し、海底でキチジ9個体にピンガを装着した。基準局は、2016年3月に回収する予定。

#### ・長期モニタリングシステムによる環境変動の把握

大槌沖水深1000m地点に設置した長期モニタリングシステム(ランダー)を回収し、タイムラプス映像や環境データを取得した。整備した後、再度同地点に設置した。このランダーも2016年3月に回収する予定。

#### ・クモヒトデ類分布量の定量的把握

クモヒトデ類の分布量を定量的に把握するために、ハイパードルフィンによる映像観察、ステレオ視カメラによる観察、エックマン採泥器によるサンプリングを行い、映像と採集したサンプルとを比較するためのデータを取得した。

#### ・堆積物中のメイオファウナ

堆積物中のメイオファウナを分析するために、MBARI採泥器により計61本の堆積物サンプルを取得した。

#### ・釜石沖海底谷バクテリアマットの遷移

釜石沖の海底谷水深780mにおいて、発達したバクテリアマットを観察し、各種計測、サンプリングを行い、2014年7月、同10月とその変遷を分析する。

### ● プロジェクトの名称

東日本海洋生態系変動解析プロジェクト

(東北マリンサイエンス拠点形成事業「海洋生態系の調査研究」)